

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語動詞語幹の音表象性について
Author(s)	田原, 薫
Citation	ニダバ , 16 : 47 - 47
Issue Date	1987-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047185
Right	
Relation	



日本語動詞語幹の音表象性について

田原 薫

日本語の動詞で「五段活用」の動詞は、新しい見方では子音に終る語幹をもつとされているが、それに従うとたとえば「マ行五段」活用の動詞は「m-語幹」の動詞ということになる。この「m-語幹」の動詞には内包的・或いは内向的な意味をもつものが多いようである。対照的に「k-語幹」の動詞には外延的・或いは外向的な意味をもつものが目立つ。これは発表者の感じであり、厳密な統計的調査の結果ではないので、一つの問題提起にとどまる。「b-語幹」と「w-語幹」にも「m-語幹」と似た傾向があり、「g-語幹」には「k-語幹」と似た傾向がある。

1. m-語幹の動詞の目録

〔ア行〕青む、赤らむ、あぐむ、汗ばむ、編む、怪しむ、危ぶむ、歩む、憐れむ、(遊ぶ)；意気込む (<息込む)、息む、勇む、痛む、営む、呑む、忌む、卑しむ、慈しむ；疎む、生む、膿む、倦む、恨む、潤む、(浮かぶ)；笑む；惜しむ、拜む、(負う、及ぶ)

〔カ行〕屈む、困む、(困う)、嵩む、霞む、悲しむ、嚙む、絡む、(買う)；黄ばむ〔以下～バムは省く〕；組む、汲む、(食う)、～ぐむ、悔やむ、くるむ、苦しむ、黒ずむ；好む、拒む、込む、～込む、(恋う、請う、転ぶ)

〔サ行〕沈む、したむ、萎む；すくむ、(救う、掬う)、進む、荒む (すさぶ)、涼む、住む、濟む；せがむ；そねむ

〔タ行〕企む、楽しむ、頼む、弛む、たわむ、(尊ぶ)；縮む；摺む、つぐむ、慎む、包む、積む、摘む、詰む、(使う)；富む、(飛ぶ、跳ぶ、問う)

〔ナ行〕馴染む、悩む、(習う、並ぶ)；にじむ、にらむ、(匂う)；盗む、温む；妬む、(願う、狙う)；望む、飲む

〔ハ行〕育む、挟む、弾む、はにかむ、～ばむ、妊む、(運ぶ)；僻む (<僻目)、歪む、怯む、潜む；へこむ；含む、踏む

〔マ行〕まどろむ、(舞う、結ぶ)；恵む (<めぐし)；もむ、(cf. 求める)

〔ヤ行〕休む (<安)、病む、止む；ゆがむ、緩む；読む、(呼ぶ、酔う)

〔ラ行〕力む 〔ワ行〕(笑う)

以上は内的・質的な変化、内側に向かう動作を表わすものが圧倒的に多い。

2. k-語幹の動詞の代表的なもの

開 (あ) く、暴く、歩く、行く、置く；書く、欠く、搔く、乾く、聞く、効く、砕く、挫く；裂く、咲く、敷く、空く、瀝く、鋤く、急く、堰く；炊く、叩く、付く、突く、解く (説く)；泣く (鳴く)、抜く、退 (の) く；履く、掃く、引く、開く、吹く、拭く；巻く、向く、剝く；焼く、往く (逝く)

以上の考察は決して音義説に与するものではないが、言語が幾世代を経るにつれて音表象上有利な形が淘汰されて残って行ったことの結果と考えられる。